



あけましておめでとうございます。新年もどうぞよろしくお願ひいたします。
今年も規則正しい食生活を心がけ、楽しく毎日を過ごしていきましょう。

令和6年1月9日発行
宮城県佐沼高等学校 定時制課程



1月24日は「学校給食記念日」です。この日をはさむ1週間を「全国学校給食週間」としています。戦後の食べものがないときに、日本の子供たちを助けようと、世界中の国々から粉ミルクや缶詰などが送られてきました。「全国学校給食週間」は、この世界の人々の温かい心によって、学校給食が再開されたことを記念する週間です。

この期間を通して、給食の歴史を振り返り、食べもの大切さや作る人の思いを知り、感謝の気持ちを持って食事ができるようになってほしいと思います。

学校給食の歴史

明治22年

山形県の鶴岡にある忠愛小学校(当時はお寺を学校として使っていました)で、子供たちに無料でお昼ごはんを与えたのが学校給食のはじまりです。当時は貧しい時代で、子供でも農作業の手伝いをしたり、小さい子供のお世話をしたりして一生懸命働いていました。また、食べるものが少なく、お腹をすかせている子供がたくさんいました。

昭和のはじめ

栄養が十分にとれない時代だったので、子供たちに栄養のある食事を与えて、丈夫な体をつくるために給食が日本中に広まりました。

昭和18年頃

戦争のため、食べ物が不足して給食がストップしました。

昭和21年12月24日

戦争が終わり、子供たちの栄養改善のため、アメリカをはじめ世界の国々から小麦粉や脱脂粉乳の援助を受けることになり、東京の小学校でこれらの物資の贈呈式が行われ、給食が再び始まりました。

この12月24日を記念して給食週間がつけられましたが、冬休みの関係上、1か月遅れの1月24日をはさむ1週間を『全国学校給食週間』としたのです。

今月は「お正月とそれにまつわる料理」についてご紹介します！

今月の料理といえば・・・おせち料理ですね。おせちには、こんな願いが込められているのです。

- ★黒豆・・・健康でまめに働けるように。皮の皺は長生きができるように。
- ★田作り・・・昔カタクチイワシの小魚を稲作の肥料に使われたことから豊作を願います。
- ★数の子・・・子宝と子孫繁栄を祈ります。ニシン(二親)から多くの子が産まれるため。
- ★栗きんとん・・・黄金色に輝く財宝にたとえて、豊かな1年でありますように。
- ★昆布巻・・・「よろこぶ」の言葉にかけているようです。健康で長生きできるとのいわれもあります。
- ★海老・・・長生きの象徴。長いひげを伸ばし腰が曲がるまでの長生きを願って。